

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット東)

事業所番号	0173700287		
法人名	有限会社 ファニティ		
事業所名	グループホームSORA		
所在地	伊達市長和町609番地		
自己評価作成日	平成29年11月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JiyosyoCd=0173700287-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	平成29年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・言いたい事が言えてやりたいことが出来るよう入居者一人ひとりの想いに寄り添い、当たり前前の生活を当たり前前に出来るよう対応しています。 ・入居者の皆さんが笑顔の絶えない日々を過ごせる様に支援しています。 ・健康管理に力を要れ、運動の一環としてレクで午前には手足運動と歌を歌い、午後はラジオ体操と風船バレーを行い体力維持に努めている。 ・ホームの畑を通し季節感を味わえ、収穫した野菜を調理して提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、伊達市の西方向に位置している長和町の自然豊かな郊外にある2階建て2ユニットのグループホームである。玄関に入ると吹き抜けの大きな多目的ホールがあり、左右対称にそれぞれ2階建てのユニットがある。リビングや食堂も広くゆったりしており、利用者は、日中殆どリビングで寛いでいる。外には敷地程広い菜園や駐車場があり、屋外行事には最適である。法人は、居宅介護支援事業所や通所介護事業所を同市で運営しており、長年の実績が評価され、平成29年5月に以前の運営会社から事業を引き継ぎ、6月に社名や事業所名も変更して再出発している。事業所名のSORA(そら)は遠く離れていても何処かであなたと繋がっています。～そんな想いを紡ぐ場所～と謳っており、運営開始から間もない為、ホームの特長はこれからだが、理念の一部として「自分の家のような自然体で、明るく笑いの絶えない和みのホーム」を目指している。多目的ホールでは、認知症カフェの開催やボランティアによる琴やピアノの演奏会など地域へ開放しており、認知症高齢者の事業所として、これから期待したい。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印				↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4 ほとんどつかんでいない			<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2 数日に1回程度
		<input type="radio"/>	3 たまにある			<input type="radio"/>	3 たまに
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない			<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない			<input type="radio"/>	4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらい
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 職員の1/3くらい
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない			<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない			<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらい
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 家族等の1/3くらい
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない			<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない			<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践につなげていくようにしている。	事業所の理念は職員で作成して、事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載している。職員は、介護計画検討時には理念に基づき打ち合わせして、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りなど地域のイベントに参加している。	町内会に加入し、お祭りなどの行事に参加している。また、事業所内で認知症カフェの開催を2ヶ月に1回行っており、毎月地域のボランティアによる琴やピアノの演奏会も行うなど日常的に交流している。	多目的ホールを地域へ開放して、認知症カフェなどを開催して地域との交流を進めているが、町内会や学校など地域の一員としての交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に認知症カフェを開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	家族様の出席率が高く、都度意見があり活かしている。	運営推進会議は、市介護保険係担当者や町内会役員、家族の参加により定期的に開催して、運営状況の報告や意見交換など行いサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスの取組に関しては連絡をしているが、市の協力は全くない。	運営推進会議に市介護保険担当者が参加しており、意見交換している。また、保護課とは定期的に状況報告など行い情報交換して、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は事業を引き継いでからは行っていない。また、職員の意識も高い。	身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備して、会議の時に身体拘束や虐待についての研修会や勉強をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて虐待について学ぶ機会を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し権利擁護など学ぶ機会をもち、必要な方には提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設での日常生活や料金など説明し、納得して頂くよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などを通じ、意見や要望を伺っている。	ホーム便りは、全体の運営状況と利用者毎の生活状況を併せて毎月発行し、家族へ報告している。意見箱は玄関に設置しており、何時でも意見を聞く機会を用意している。家族が運営推進会議に参加時や来所時などに意見や要望を聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新規入居者についての説明を行うなど、話し合う機会もあり話しやす状況を作っている。	全体会議を毎月行っており、毎日の申し送りノートの活用やカンファレンスの時も打ち合わせなど行い、意見や提案を聞く機会として、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段の仕事の状況を把握し、働きやすい環境を作り、意見などを受け止めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員個々がテーマを決め研修会を行っている。施設外研修の参加も受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	認知症カフェを通じ、交流するようになっているが、まだまだ足りていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一同努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員一同努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族の意向を伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などできる事は参加してもらい、家族のように接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子などの報告を行い、日常を共有するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	前の代表の閉鎖的などころがあって、今年代表が変わり漸く外部との関わりが出来ている。	利用者が殆ど地元出身で、家族や友人、知人の訪問が多く、家族等と一緒に外出して、美容室や温泉、墓参りなど馴染みの場所に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者で合う人合わない人を把握し、皆が居心地の良い関わりが出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までのサービス終了は死亡か入院だったが、入院の場合は見舞いなどに行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さなことでも本人の希望は聞き逃さないようにしている。	日常生活のケアの中から、本人の思いや意向を聞き出して把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の記録など、本人と話すことでより把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方を職員間で情報交換しながら現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画に対しての評価をして、更新時には家族にも評価してもらい計画を更新している。	介護計画のモニタリングを行い、原案を作成し、全体のカンファレンスで検討して、家族と打ち合わせして意見などを踏まえ現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録し、情報共有しながら行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイの受け入れなど、緊急時に必要なサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時の対策などを運営推進会議で話あっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は看護師が同行している。	看護師が2名の交代勤務で、かかりつけ医の定期受診は看護師が同行している。また、協力医療機関の訪問診療は2週に1回で、適切な医療を受けられよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時の全身観察などで異常がある時は看護師に見てもらおうなど協働している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの施設での生活・状態など情報を出している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取り等の研修参加したり、訪問診療や訪問看護などを積極的に取り入れている。	看取り等の重度化した場合は、医師や看護師とホーム職員が連携して積極的に対応している。また、職員は看取り等の研修会に参加するなどして学んでいる。	重度化や終末期についての対応の指針やマニュアルを整備して、事業所として職員間で共有し、連携して支援できるよう取り組むことを期待する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携はできている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防にきてもらい、訓練を行っている。	火災の避難訓練は、消防署の指導の下、年2回定期的実施して、備蓄や備品を整備して災害対策を行っている。	避難訓練は、定期的実施しているが、町内会の方や家族の参加による地域との協力体制で自然災害も含めて災害対策を行うことを期待する。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け等プライドを傷つけないよう対応している。来ていない時には職員間で注意している。	人格の尊重やプライバシーの確保については、声掛け等で、人格を尊重するよう対応しており、できていない時は職員間で注意して対応をするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫し、介護側が押し付けることのない様努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人の要望に沿うよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	会話の中で季節感を感じてもらい一緒に服を選んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり出来る事を見つけ、一緒に準備も食事でも楽しむよう努めている。	献立や料理は職員が行っており、利用者は、もやしのひげとりや茶わん拭きなど手伝っている。行事食は、誕生会の特別メニューやボランティアによる蕎麦打ちなどもあり、楽しい食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物の大きさや方など一人ひとりに合わせ提供できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとのトイレ誘導、排泄パターンを話し合い、出来るだけ自立に向けた支援を行っている。	トイレは奥行があり、車いすの仕様である。利用者個々の状況を排泄チェック表を基に職員間で共有し、時間ごとに声掛け誘導して、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物・飲み物などで工夫しているが、どうしても便秘する場合は薬も処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々に沿った支援が出来る様、職員間の意識レベルを変えていけるよう皆で話し合っている。	浴室はユニット型で、入浴は週2回午後からだだが、状況により午前中の方もおり、1番風呂希望の方もいるなど、個々に沿った入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間で就寝介助を行うのではなく、一人ひとりの状況を把握していけるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報交換を行い、症状の変化の確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部の入居者さんが少しずつ出来ている状況であり全ての入居者へ支援が出来る様にしていく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来ていない。	広い敷地内や近隣の散歩は日常的に支援している。利用者と一緒に買い物ついでに外出して、希望の場所に行ったりするなどしている。また、利用者は広い菜園の作業や収穫なども職員と共にっており、季節を感じる支援をしている。	散歩や買い物など職員との日常的な外出の支援はしているが、家族の協力や地域の方の支援など受けながら、外出行事の計画を立て、利用者の希望を取り入れた定期的な外出の支援を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関する理解できるレベルではなく、出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される入居者さんには対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう、椅子の配置など工夫している。	共用空間は、玄関を開けると吹き抜けの多目的ホールで、明るく広々としている。食堂やリビングは、広くゆったりしており、採光や風通しもよく、居心地よく過ごせる寛ぎの場所である。廊下も幅広く、床暖房で暖かい。利用者は、多目的ホールで、歌やラジオ体操、風船バレーなどのレクリエーションで楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールがあり、思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	居室は、一間の収納があり、ベットも設置しており、配慮されている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など分かりやすい目印をつけ、職員がさりげなく気づけるよう対応している。		